

旧城ヶ入産業組合 農業倉庫

きゅうじょうがいにいさんぎようくみあい のうぎようそうこ

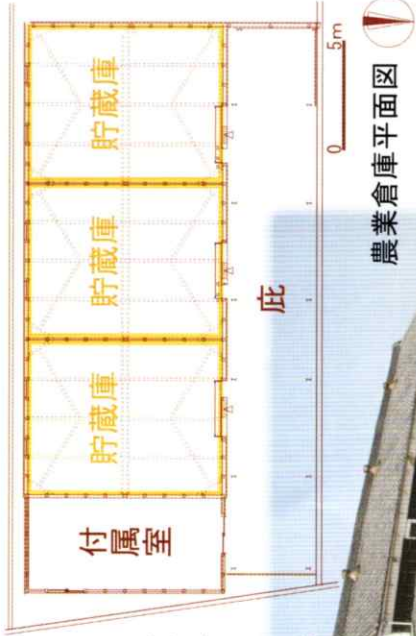
解体に伴う緊急調査

建築年代：昭和7年12月上棟（棟札）

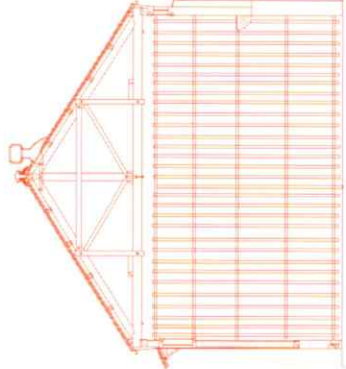
昭和8年完成（推定）

構造様式：木造 平屋建 桧瓦葺 土蔵造

1室が桁行4間×梁間5間の貯蔵室3室からなる土蔵形式の倉庫です。市内の農業倉庫の貯蔵室は、5間×5間が主流であることから、旧城ヶ入産業組合の農業倉庫は特殊な事例といえます。



農業倉庫平面図



農業倉庫断面図

東側に大棟を一段おとして桁行14尺ほどの付属室があります。北前^北面の当初の前室は撤去され、調査時は鉄骨造で庇^{ひさし}が設けられていました。屋根を支える構造にはトラスが用いられています。

すぎうらしょうえもんけながやもん 杉浦庄右衛門家長屋門

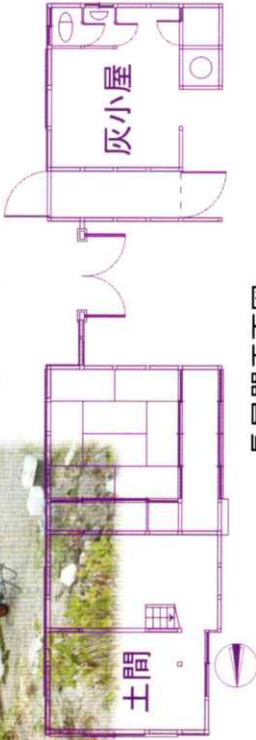
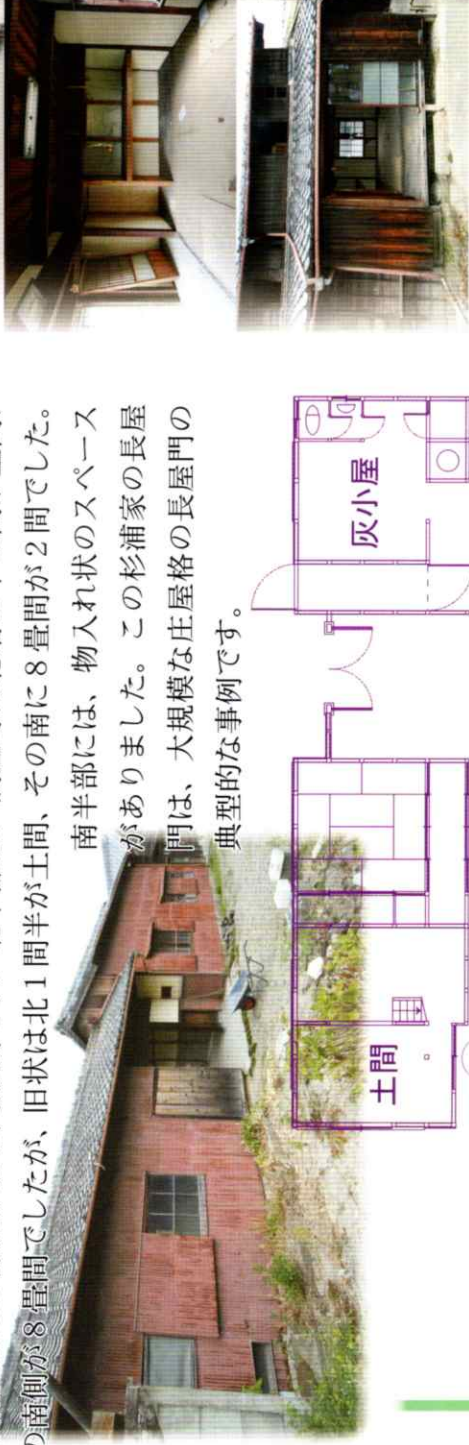
解体に伴う緊急調査

建築年代：年代不明（明治時代か）

構造様式：木造切妻造 北半部二階建 南半部平屋建

杉浦庄右衛門家は寛政2年（1790）～12年（1807）および文化4年（1807）～文政3年（1820）西尾の庄屋を務めた家柄です。長屋門は、門の両側に使用人の居所や納屋などの部屋がある門形式です。北半部は、調査時は北端と中の間が土間、その南側が8畳間でしたが、旧状は北1間半が土間、その南に8畳間が2間でした。

南半部には、物入れ状のスペースがありまりました。この杉浦家の長屋門は、大規模な庄屋格の長屋門の典型的な事例です。



長屋門平面図

安城市歴史的建造物 NEWS Vol. 2

編集・発行 安城市教育委員会 生涯学習部文化財課文化財係
〒446-0026 安城市安城町城堀 30 番
TEL (0566) 77-4477 FAX (0566) 77-6600



本證寺鐘楼

本證寺鼓樓解体修理

本證寺鐘樓解体修理

旧福釜農業組合 農業倉庫

八幡神社（根崎町）

旧城ヶ入産業組合 農業倉庫

杉浦庄右衛門家長屋門

ほんしやうじ 本證寺鼓楼解体修理

ほんしやうじ 本證寺は鎌倉時代の創建とされ、戦国時代には、岡崎市の上宮寺・勝鬘寺とともに「三河三か寺」として一向一揆で徳川家康と戦いました。江戸時代になると、中本山格寺院としてこの地域に多くの末寺を抱え、三河真宗の中心的寺院として隆盛をきわめました。

本證寺には本堂（昭和49年県指定）をはじめ、
ころう 鼓楼・鐘楼・経蔵・裏門（平成17年市指定）等多くの江戸時代の建造物が残されています。

鼓楼は太鼓楼とも呼ばれ、時を告げる合図として中に設置された太鼓を鳴らしたことからこの名があります。浄土真宗に特有の建物で、ある程度の寺格を有する寺院にしか建立されていません。市内では本證寺以外には円光寺にも残されていますが、1階は茶所（門徒の集会所）を併設しており、本證寺鼓楼のように専用の建物として建てられたものは西三河では他に専福寺（岡崎市）・無量寿寺（西尾市）のみです。近年、建物の各所に傷みが目立つようになっため、平成18年度に解体修理を行いました。



鼓楼修復前

発見された二つの年号

修理のために解体を進めていくと、様々な部材に年代が記されていることが分か

りました。それらには、

「宝永七年」（1710）

「宝暦十年」（1760）

と書かれていました。



宝暦十年辰四月



宝暦十年



宝暦十歳辰

「宝暦十年」のへう書の
鯨瓦

「宝暦十年」の墨書のある肘木

「宝暦十年」の墨書のあ
る垂木



本證寺伽藍配置図

「宝暦十年」と記された部材は、解体しな
くでは書けない場所から発見されているた
め、「宝暦十年」が建造年代と考えられます。
一方、「宝永七年」と記された部材は、一部
が外側に出ていたり、材質が他に使用され
ている材とは異なる母材（つが）であつたりするこ
とから、もともとは、他の建物に使われて
いた材を転用したもののようです。

「宝永七年」の墨書
のある棟木の赤外線
写真

修復の記憶

文化財に指定された建物は、一般の建物と異なり、構造などに支障がない限り材料はできるだけ再使用します。腐ったり壊れたりした箇所だけを新しく補います。今回も折れたり腐ったりした部材は取り替えましたが、被害の小さいところは埋木などをしています。また、瓦でも使えるものは再使用しています。

過去の修復でも、建造当初からの部材で可能なものは再使用されていました。そのため、部材の違いから修理した箇所が分かります。

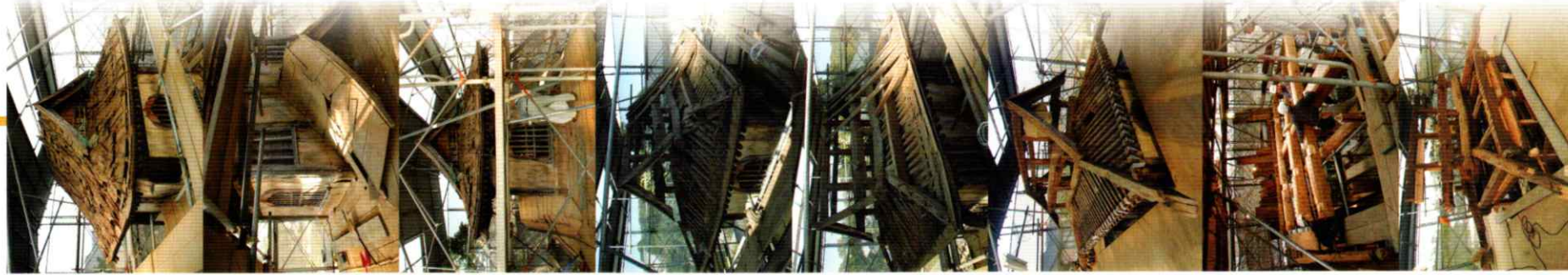
鼓楼は安政4年（1857）に一度、全解体され1階部分が拡張されていることも分かりました。安政元年（1854）11月4日に安政東海地震、翌5日に安政南海地震が発生しました。このとき鼓楼は長い年月の痛みに加え、地震による被害を受けたため修復が必要になったと推測されます。

また、昭和19年（1944）12月7日に発生した昭和東南海地震と翌年の1月13日に発生した三河地震により、2階部分が傾いたと伝えられ、1階も何らかの被害があつたと思われま
す。そのため、昭和20年代に主に1階部分の修理が行われました。

今回の修復以前は、2階の屋根はすべて本瓦葺でしたが、1階の屋根は東
面のみ本瓦葺で、他の三面は棧瓦葺で
した。しかし明治時代に写された写真
では、東面と南面が本瓦で葺かれてい
ました。これにより今回1階の屋根は
すべて本瓦葺にしました。



鼓楼修復後



ほんしょうじしょうろうかいしたいしゅうり 本證寺鐘楼解体修理

しょうろう
鐘楼は長年の風雨により各所に傷みが見られるようになりました。特に東側の
屋根は大きくわんでしまい、放置しておくとも瓦が落下する危険があることから、
平成20年に解体修理を行いました。



修理前の屋根



本證寺伽藍配置図

鬼瓦に刻まれた銘文

解体修理をするのにまず全体を素屋根で覆い、瓦からはずしていきます。この
とき鬼瓦に銘文があることが分かりました。



北側の鬼瓦に書かれた銘文



南側の鬼瓦に書かれた銘文

南側の鬼瓦には

「元禄十六癸未歳
七月吉日」

北側の鬼瓦には

「三州岡崎傳馬町住
藤原瓦師佐々与七郎作」

と書かれていました。



銘文の書かれた鬼瓦（北側）

この銘文が決め手になり、鐘楼の建築年代を確定することができました。本證寺で確認されているこれまでの銘文のある瓦では最古のものとなります。本證寺に残る江戸時代中・後期の瓦は藤井村（現在の藤井町）の瓦師岩瀬家の手によるものも多く、鼓樓の宝暦10年（1760）、庫裏の文政13年（1830）、本堂の安政6年（1859）銘のもの等に藤井村瓦屋利助、岩瀬庄蔵・金蔵等の名が確認されています。

部材に書かれた墨書

解体の際、部材に墨書が確認されました。

「牛久保□□衛門 元禄□□」

「牛久保 傳助建」

「勘右衛門道」

の3点です。「牛久保□□衛門

元禄□□」「牛久保 傳助建」の

2点は、現在の豊川市牛久保に

いた大工岡田五左衛門の一派を指すと考えられ、鐘楼が岡田家の作であることを推測させます。牛久保の岡田五左衛門は当時の有名な大工でした。岡田家に伝えられる文書によれば、安城市内でも円光寺本堂、西心寺本堂、法行寺本堂、大岡白山神社拝殿をはじめ、数多くの建物が岡田家の手により建てられました。

「勘右衛門道」は、意味ははっきりとは分かりませんが、鐘楼の南側に住んでいたのが水野勘右衛門であることから、何らかの関係があると考えられます。

1700年頃いまの姿に

本證寺の建物の建立年代は、本堂が最も古く、遅くとも寛文3年（1663）には建てられていたようです。次いで鐘楼が元禄16年（1703）に、山門が宝永元年（1704）に建設され、鼓樓が宝暦10年（1760）に建てられます。庫裏の前にある裏門も、年代ははっきりとはわかりませんが、様式から1700年前後のものと考えられています。また、鼓樓に転用されていた部材に宝永7年（1710）の墨書が



修理完了

発見されていることから、現在残っていない建物で、宝永7年に建立されたものがあることが分かります。本證寺が一向一揆の後破脚され、再興が許される天正13年（1585）以降、徐々に整備されていき、1700年前後には現在見るような伽藍がほぼ完成されたと考えられます。

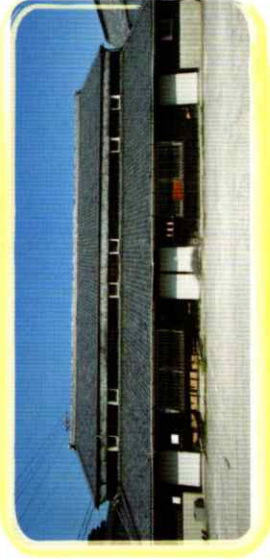
江戸時代の建物は他に文政6年（1823）の経蔵、文政13年（1830）の庫裏があり、これほど多く江戸時代の建造物群が残されている社寺は他にありません。未来へ後世に伝えていきたいものです。



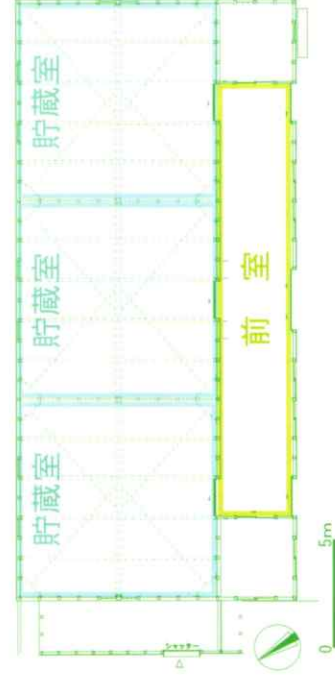
きゅうふかまさんぎようくみあい のうぎようそうこう 旧福釜産業組合農業倉庫

昭和初期に米蔵として建てられた農業倉庫は、「日本デンマーク」安城を象徴する建物のひとつです。かつては各町内にあったほとんどの産業組合に建てられていましたが、今では数えるほどしか残っていません。農業倉庫は5間×5間の貯蔵室が2または3室連結され、その前面に下屋と呼ばれる庇が取り付けられている規格性の高い建物です。

建築年代：昭和3年（1928）建造（登記簿）
構造様式：木造 平屋建 檼瓦葺 土蔵造



農業倉庫外観
外観は、建築当初の様子をよく残しています。



農業倉庫平面図

1室が5間×5間（1間＝1.818m）の貯蔵室3室からなる梁間5間、桁行15間の土蔵形式で、南前面に2間の前室が付いています。現在は3室連結の倉庫は東端・二本木とこの福釜農業倉庫の3棟のみです。

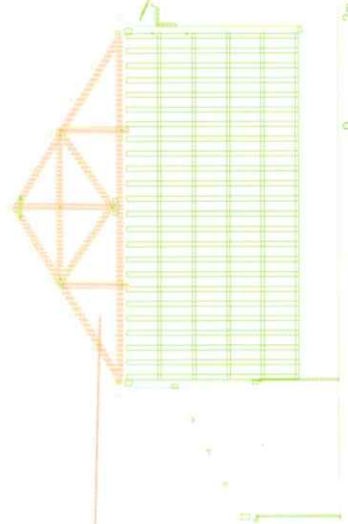


トラス構造

屋根を支える構造には、三角形を基本にして組んだトラスを採用しています。トラスは屋根の荷重を分散して受ける構造で、これにより部屋の中に柱のない広い空間を作り出すことができます。トラスの梁は古くから西洋の木造屋根を支える構造として使われました。

福釜農業倉庫は後の改変も少なく、碧海郡の農業倉庫の代表的な建物として貴重なものといえます。

農業倉庫断面図



解体に伴う 緊急調査

はちまんじんじや 八幡神社（根崎町）

安城市では歴史のある建造物が取り壊される際には出来る限り図面を取り、記録を残していくようにしています。20年度は根崎町の八幡社、城ヶ入町の旧産業組合農業倉庫、安城町の杉浦庄右衛門家長屋門の調査を実施しました。



八幡神社位置図

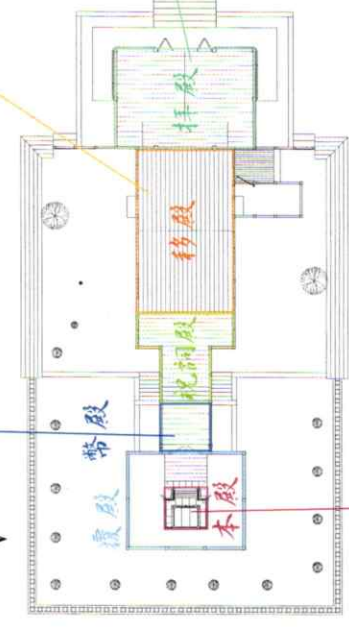
八幡神社の社殿の配置は、南から拝殿、移殿、祝詞殿、幣殿、覆殿が一直線に配され、覆殿の中に本殿が鎮座します。本殿は寛保3年（1743）、覆殿は弘化2年（1845）に建立され、その他の主要な社殿の多くは、昭和20年（1945）の三河大地震後に再建された建物でした。平成21年に本殿以外の社殿が、新築されました。



幣殿
切妻造 銅板葺



移殿
切妻造 檼瓦葺



拝殿
切妻造 檼瓦葺



三河地震で倒壊する前の拝殿



本殿
一間社流造 こけら葺



本殿妻飾

本殿は今回の建て替えにおいてもそのまま保存されることとなりました。小規模な模範ですが、作風は古風で、特に細部の部材の彫刻は秀麗です。江戸時代中期にまで遡る建物は安城市内でもそれほど多いわけではありません。特にこの地区では三河地震により多くの建物か倒れたため、数少ない貴重な建造物となっています。